

院内保育所

工 期:H29年3月1日～
H29年7月31日
用 途:保育所
構 造:木造平屋建
敷地面積:S=543.88m²
建築面積:S=197.80m²
延床面積:S=177.90m²



【施設紹介】

この度、開所した保育所は院内保育と病児保育に対応しており、それぞれ玄関が分かれています。内部は、杉板が貼られた壁面や、梁を現した広い吹抜空間等、木材をふんだんに使用した、明るく、落ち着ける空間となっています。



▲保育室・乳児室

▲病児保育室



▲園庭

▲トイレ



9月1日 院内保育所
&益田市病児保育事業所
オープンです!!



この度かねてから、当院の念願でありました院内保育所がオープンしました。院内保育所は、医師、看護師などの夜間勤務を行う職員の子育てを支援するため、週に1度、夜間保育(24時間保育)を実施するほか、一時保育や延長保育などの保育ニーズにも対応します。このことにより、職員の確保、定着が促進されることを期待しています。

また、院内保育所には、益田市が運営する病児・病後児専用の保育室も併設されます。病院が隣接していることで、熱性けいれんなどの急変時の迅速な対応も可能になり、地域の皆様に安心して利用していただけると考えています。当院は今後も、医療・患者サービスの向上と地域社会への貢献に努めて参りますので、よろしくお願いいたします。

院長 木谷 光博

①最初を目指したきっかけはなんですか

東京大学教育学部で人間学を学んでいました。大学を卒業してからはサラリーマンをしていました。どんな仕事でも世の中の役に立つていると信じ働いていましたが、どうしてもそれを強く実感したい気持ちを感じられませんでした。25歳のとき、私は医者になろうと決め、島根大学医学部を受験し合格、卒業し、現在に至ります。

②神経内科を選んだ理由はなんですか

人が暮せに生きていたいと思ったときに、は、暮せに生きゆつてなんだろうと考えたとき、〇〇歳の向上ででした。私は患者さまの〇〇歳を、特に高齢者のADLの向上という面からサポートしていきたいです。ADLは全身の動きに関するものです。全身の動きは神經、筋肉のはたらきによるものなので、神経内科を選びました。

③当院に来られたどのような印象を持ちましたか

赴任したタイミングが新病院になつてすぐだったのでとてもキレイな病院だなと感じました。あと木谷先生も松井先生も大きいです。

④神経内科ほどのよな診療をするのですか

一般的な診察に加え、脳梗塞、脳卒中、頭血



[仕事の紹介]

薬剤師とは

薬剤師は、「处方せんを監査し、薬を調製し、「薬の飲み方や注意点などの説明・指導」、「薬の特性を考慮した保管管理」「薬の効果や副作用の情報を収集・管理・提供」など多岐に亘って開わり、患者さんへの治療がより効果的で安全に行えるように日々活動しています。また木谷先生も松井先生も大きいです。

「がん薬治療法監査室」「がん薬治療法監査室」は、手のひらに「がん治療」に特化した知識・技術を持つ薬剤師です。患者さんにあった折れた薬の選択肢や患者さんを悩ませる抗がん薬の副作用などを詳しく説明するなどの指導を行っています。

私がいるため出発の支援などを行っています。また「がん治療は日々進歩している」最新の情報を収集して他の薬剤師スタッフ（医師、看護師など）に報告し、患者さんが安全かつ有効ながん治療が行えるように「がん化学療法治疔（化疗）、看護師、薬剤師、看護師、看護師、臨床心理士、臨床心理士、事務など）と一緒にして患者さんの医療を含めた支援を行っています。今後も、八百津先生さんはやささんとのことで外医患者さんに対する精神的・体力的・社会的支援が広く広がるように支援していくつもり思います。

「医療専門薬剤士」「医療専門薬剤士」とは「かかりつけ薬剤師」という医療専門チームにかかりつけ薬剤師が安心・安全な薬の選択肢や治療法をより詳しくするための活動に携わる人の事で、門診薬剤師です。専門薬剤師に向かう様々な医療スタッフと共に協力する精神で、専門薬剤師は医師、看護師、薬剤師、看護師、看護師、看護師、看護師、看護師、看護師など多く携わっています。

「かかりつけ薬剤師」とは「かかりつけ薬剤師」としての医療を提供する方です。かかりつけ薬剤師として必要な薬が食べられない方もあるかもしれません。そこで、生活や食事、薬剤治療など様々な面からサポートする、糖尿病治療に携わる糖尿病専門薬剤師、三院でも糖尿病専門薬剤師の資格を持つ看護師、看護師、看護師、看護師、看護師など多くの専門性を持った薬剤師がいます。

高度な知識と技能を取得した薬剤師（認定薬剤師）が薬局内にあり、専門領域において他の医療スタッフと共に活動を行っています。今回は、専門・領域で活躍している認定専門薬剤師の中、「がん薬物療法認定薬剤師」、「認定看護師」、「認定看護師」、「認定看護師」、

薬剤師が、日々の施設病院で働いています。
薬剤師は、日々の施設病院で働いています。

精神疾患、パーキンソン病、その他変性疾患などを診療します。

⑤やりがいを感じるところはどなたですか

医者って医療としてのチームの中で、リード的なポジションに立つことが多いです。普通の会社ですと3年目4年目だとなかなかそうはいきませんが、医者である故に自分の方向性を責任もって周りのスタッフに示していくしかないといけない。今何をやって、これからどうするか、その範囲は自分が決めなければならない。そこにやりがいを感じます。

⑥急速な高齢化を背景に、精神障害や認知症を初めとする多くの神経疾患が増加していくものと思われます。医師として、今後どのような働きが重要になっていくと思われますか？

医師の仕事としては医療の仕事がメインになりますが、病気だけでなく家庭環境とか患者さんの背景的なことを見ながら、よりよい生活が送れるようにお手伝いでさればなといけない。今何をやって、これからどうするか、その範囲は自分が決めなければならない。そこにやりがいを感じます。

Doctor's Interview!!

来海先生に聞いてみた！



来海先生、ありがとうございました！



活動報告

季節ごとの行事・イベント

2017年6月1~8月

6月1日(木)今年もANA様より、「すずらん」の花の贈呈式が行われ、「すずらんの切り花」「すずらんの鉢植え」「すずらんの鉢植え」の3種類を贈りました。

6月28日(水)新型インフルエンザ発生時の対応について、益田保健所と連携し、患者受け入れの訓練を実施しました。今回の訓練は、益田保健所より、新型インフルエンザに感染した疑いのある患者の受け入れ要請のもと、関係部署へ検体引渡し、医師により検体を採取、専用通路からの患者受け入れを行いました。



保健所/疫学調査班・検体調査班へ検体引渡し。

医師により検体を採取。

防護具を着用して、患者受け入れ態勢を取る医師、看護師、専用通路からの患者受け入れ。

今回の訓練を受け、患者情報伝達の課題、他者への影響を最小限にした患者移送の方法、防護具の着脱など様々な確認ができました。今後も、保健所との連携をより一層深め、感染管理認定看護師はじめ、各部門と連携しながら、感染症への対策強化を図って行きたいと思います。



グランツワ・ユースコール

7月2日(日)

今年も恒例となっています、庄兼先生が率いるグランツワ・ユースコールの皆さんが来られました。「365日の紙飛行機」など全5曲を力いっぱい歌っていただき、その歌声はロビーいっぱいに響き渡りました。



保健所/疫学調査班・検体調査班へ検体引渡し。

医師により検体を採取。

防護具を着用して、患者受け入れ態勢を取る医師、看護師、専用通路からの患者受け入れ。

今回の訓練を受け、患者情報伝達の課題、他者への影響を最小限にした患者移送の方法、防護具の着脱など様々な確認ができました。今後も、保健所との連携をより一層深め、感染管理認定看護師はじめ、各部門と連携しながら、感染症への対策強化を図って行きたいと思います。



グランツワ・ユースコール

7月2日(日)

今年も恒例となっています、庄兼先生が率いるグランツワ・ユースコールの皆さんが来られました。「365日の紙飛行機」など全5曲を力いっぱい歌っていただき、その歌声はロビーいっぱいに響き渡りました。



本施設は、平成29年7月に社団法人日本損害保険協会から「交通災害等救急医療機器整備事業」として寄附金を受け整備しました。緊急手術が必要な大腸骨や骨盤部の骨折に装置を使用して手術を行います。2方向X線で水平・垂直を同時に撮影し、より正確な骨折部位の整復と骨接合が期待されます。今後も交通事故等で受傷した患者さんの早期社会復帰の支援、医療の質の向上を目指していただきたいと考えております。

**2方向透視X線TV装置
バイブルーナー500eを
整備しました**

認定看護師・新任医師 招介

土佐めぐみ
【E播磨病院】

認知ケア認定看護師

認知ケアは、生命を脅かす疾患による問題に直面する患者とその家族に対して、看護や心、床頭に対する苦痛を緩和し、患者家族の自信と意欲を尊重し、その人らしく生きることを支えるケアです。その人の「生きる」に貢献するよう、患者とその家族が直面する葛藤、発見、改善に耳を傾け、多職種と一緒に考えながら実践活動を続けていきたいと願っています。

齋藤操
【E播磨病院】

がん性疼痛認定看護師

がんによる身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな痛みを持っている患者さんや看護師、専門的に学んだ知識を活かし継続していくことが私の役割です。痛みと闘っている患者さん、ご家族の声に耳を傾け、できる限り実際にその人らしい生き方ができるよう一緒に考えてもらいたいと思っています。

寺戸ゆり
【E播磨病院】

認定・横下腰椎疾患認定看護師

認定・横下腰椎疾患認定看護師に求められる役割は、認定・横下腰椎疾患を抱えた患者様やその御家族に対して、安全に拘泥なく日々食べることなどを算出して看護を行うことです。食べることは生きることであります。私は一人でも多くの命の笑顔が見られるよう、患者様や御家族に会う機会を設けて頂きたいです。

内田有紀
【外村病院】

准看護師/ソフトテニス、スポーツ解説、カフェ運営
准看護師/私は看護師の中西山先生の「中西山町立外村病院」です。東洋医学で、6月から始めて働かせていただきましたが元気で頑張りますので宜しくお願いします。